

## 近年の「大腸がん」治療

# 患者の遺伝子調べ薬選ぶ

九州大病院別府病院の治療・研究

### からだを 読み解く

▶10◀



外科助教 はじめ  
大津 甫

大腸がんは日本で最も患者数の多いがんです。早期であれば内視鏡での治療が可能であり、広がっていないければ手術によって根治を目指すことができます。しかしながら、再発や遠隔転移が見つかった場合には、抗がん剤を中心とした薬物治療が必要になります。

近年は、患者さん一人一人の遺伝子の特徴を調べて、最も効果が期待できる薬を選ぶ「個別化医療」が進んでいます。例えば、RASやBRAFといった遺伝子変異の有無によって、使用できる分子標的薬が異なります。遺伝子検査を行うことで、その患者さんに合った治療を選べる時代に

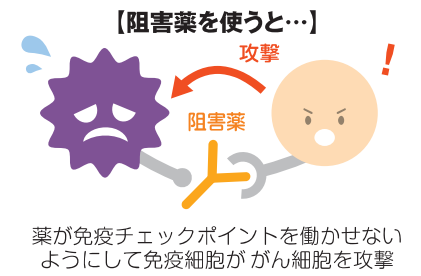
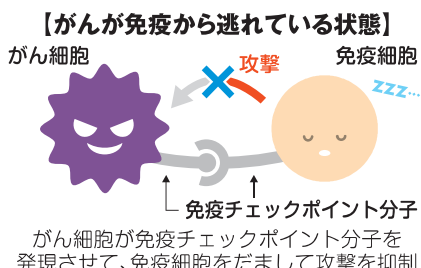
## 選択肢の一つに「免疫薬」

なってきました。

そうした治療選択肢の一つとして、ここ数年で使用可能になったのが「免疫チェックポイント阻害薬」です。私たちの体には本来、がんを攻撃する免疫の力があります。しかし、がん細胞は通常の細胞が持つ「免疫のブレーキ」を利用して、攻撃から逃れています。この薬はそのブレーキを外

し、再び免疫ががんを攻撃できるようにするものです。肺がんや皮膚の悪性黒色腫（メラノーマ）などで効果が実証され、大腸がんにも応用が広がっています。

特に効果が期待されるのは「マイクロサテライト不安定性（MSI）」という特徴を持つ大腸がんです。大腸がん全体の1割前後でみられ、このタイプでは免疫チェックポイント阻害薬が高い効果を示すことが分かっています。これまで抗がん剤が効きにくかった方



免疫チェックポイント阻害薬の仕組み

でも、長期間にわたって病気を抑え込んだり、まれにMRIなどの画像上から消えたりした例が報告されています。

ただし、現時点ではこの治療の恩恵を受けられるのは全体のほんの一部にとどまります。そのため、より多くの患者さんに効果を届けるため、免疫薬と他の薬や放射線治療を組み合わせた研究が世界中で進められています。今後は、治療の適応範囲が広がることが期待されています。

当院では、がん診断された患者さんに対し、手術や薬物療法を含め、常に最新の情報を基に最適な治療方針を検討します。新しい術式や治療戦略の開発・導入を通じて、その人に合った医療の提供も目指しています。

ただ、大腸がん治療において何よりも重要なのは早期発見です。検診によって見つめることが可能であり、内視鏡でポリップを切除するだけで将来の発症を防げる場合もあります。定期的な検診を受けることが、ご自身と家族の健康を守る第一歩となります。